

idea

ニュースレター「アイデア」

2022.10

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | スマホインストラクター 庄子幸華さん
- 3 | 団体紹介 | おはなしグループ マザーリーフ
- 5 | 地域紹介 | 藤沢第25区自治会（藤沢）
- 7 | 企業紹介 | 興栄通信工業株式会社（一関）
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴⑦ がんばれNPO
- 9 | センターの自由研究 | ぐらし調査ファイルNo.18「たばこどき」

今月の表紙

鮮やかな朱色のおひつ。「せんまや街角資料館」のディスプレイとして使用されていますが、本来は農作業の時などに、握り飯等を詰めて、背負って行ったものとか。茶碗一杯強位のおにぎりであれば50個は入りそうな大きさです。ところで、田植えなど「農作業時の休憩」をみなさんは何と呼んでいますか？（自由研究）

発行 いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町4-29 のはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736
ホームページ: https://www.center-i.org/ メール: center-i@tempo.co.jp

おしらせ

講座

ドコモショップ一関東店 「ドコモスマホ教室」

本誌「二言三言」にてご紹介した「ドコモショップ一関東店」では、スマホの基本操作や人気アプリ(Facebook・Twitter・LINE・メルカリ等)などの使い方を学ぶ講座を毎日(毎月第2水曜日のみ定休)開催しています。
購入前の方や、ドコモユーザー以外でも受講可能で、店頭での講座のほか、出張講座にも対応しています。自治会事業やサロン活動へのお出張依頼(基本講座は無料／アプリ講座は有料)も可能です。詳しくは下記まで。
問合:ドコモショップ一関東店
＜営業時間＞9時30分～18時30分
＜定休日＞毎月第2水曜日
＜TEL＞0120-515-528

情報

独立電源システム おひさまくん

「一関市民パワー発電所事業化検討地域協議会※」では、太陽光発電の電力を蓄えて使える独立電源システム「おひさまくん」の設置を提案しています。パネル1枚から容量により冷蔵庫や洗濯機、TVなどに利用でき、災害時は非常用電源としても活躍します。少スペースに設置可能で、見積もりは無料。詳しくは下記まで。
※地球温暖化の防止等、安心・安全な未来を目指し、再生可能なエネルギーの事業化を検討している市民団体
企画:同協議会
施工:合同会社一関市民発電
価格例:パネル1枚システム115,307円～
問合:090-8256-5111(担当:薄井)

募集

「一関すずめ踊り」 新規会員募集

お囃子のリズムに合わせ、両手に持った扇子をスズメが羽ばたくように舞う「仙台すずめ踊り」。NPO法人グッジョブクラブでは、一関流にアレンジした「一関すずめ踊り」の踊り手を増やすべく、新規会員を募集します。年齢、性別は不問、踊りの経験がなくても大丈夫です。練習日であれば見学も自由になります。詳しくは下記までお問合せください。
練習日時:毎月第2・4土曜日 10時～
場所:一関市真柴市民センター
(一関市真柴字川戸3-1)
問合:090-9747-0929
☞hagita2@r6.dion.ne.jp
(NPO法人グッジョブクラブ(担当:萩田))

情報

「Liberal Kayak(リベラルカヤック)」 カヤック体験受付中

「Liberal kayak」では、磐井川(一関～川崎薄衣)や錦秋湖、奥州湖などのフィールドでカヤック体験を提供しています(要予約)。インストラクターからのレクチャーもあるため、初心者の方でも安心してカヤックを楽しめます。詳しくはQRコードを読み込むか下記までお問合せください。
料金:希望する
フィールドによって料金は異なります。
HP:https://www.liberalkayak.com/(「リベラルカヤック」で検索すると、上位に出てきます)
問合:090-2022-0561(佐藤)



譲ります

馬の堆肥 さしあげます

馬の堆肥を家庭菜園等で使ってみませんか。おがくず堆肥なので、匂いも少なく、扱いも容易です。
牧場まで取りに来てくださる方には無料でさしあげています。約20km圏内であれば軽トラック1台3,000円で運搬の対応も可能です(20km以上の遠方の場合是要相談)。
完熟堆肥でありませんので、必要に応じて熟成させてください。
場所:佐々木牧場
(一関市中里字大平山23-76)
※「山桜桃の湯」さん近く
問合:0191-48-4461/
080-1841-1800(佐々木)

募集

「ひとまちMEET+ING」 好評開催中

「誰でも参加可能なしゃべり場」として「まちづくり」「地域づくり」につながる「自分の想い(野望・計画等)を話したい人」や、「同じような志を持った人とつながりたい人」などがワークショップ形式で語り合う「ひとまちミーティング」を隔月開催しています。「会議進行・ファシリテーションの練習をしたい人」の参加も募り、「実践的な練習の場」としても展開。申込不要(参加表明歓迎)、詳しくは下記まで。
日時:(第2回目)※8月から隔月開催
2022年10月26日(水)19時～
場所:なのはなプラザ4階共同会議室
問合:0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。



旧町村別の人口動態等を共有します。

作品名 「My name is コウタ!」



「岩手サファリパーク」の人気者「アミメキリン」の「コウタくん(9歳の雄)」。今春お嫁さんがやってくる予定でしたが、輸送中に亡くなるという悲しい事故が発生。いつの日かお嫁さんがやってくる日を夢見て、今日もお客さんからの「コウタくん」の声を伸ばします。

2022年9月1日付
(2022年8月31日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体		前月比
人口	110235	-145
世帯数	46432	-20
出生数	44	5

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	54877	-45	24542	-16
花泉	12213	-20	4705	-3
川崎	3292	-8	1281	-1
千厩	9998	-13	4121	-3
大東	12156	-23	4925	4
東山	5966	-18	2282	-2
室根	4487	-8	1782	6
藤沢	7246	-10	2794	-5

165 / 110,235

庄子幸華

ドコモショップー関東店スマホ教室講師。NTTドコモでは2018年より、スマートフォンの購入を検討している方や、スマートフォン初心者を対象に「スマホ教室」を開催。ドコモ利用者以外でも受講可能。研修を終えた「スマホ教室講師」の中には、独自の試験に合格した「スマホインストラクター」がおり、同店の3名の講師のうち2名がインストラクター。



視覚障がいのある方を対象としたスマホ教室の様子

第99回

スマホインストラクター 庄子幸華さん

いちのせき市民活動センター 主任支援員 佐々木 牧恵

「スマホ」がもたらす生活の豊かさ ～視覚障がいをカバーするデジタル機能～

サン・アビリティーズ一関で開催されている「令和4年度障がい者ふれあい事業」の「スマートフォン教室(以下、スマホ教室)」。5回開催される教室のうち、8月は視覚障がいのある方に対象を絞っての開催でした。中高年層にも「スマホ」が普及する中で、視覚障がいのある方の「スマホ事情」はどうなっているのか、講師を務めたドコモショップの「スマホインストラクター」さんに伺いました。

佐々木 先日行われた視覚障がいをお持ちの方向けの「スマホ教室」を拝見させていただきました。iPhone(以下、アイフォン)を10年以上使っている私でも知らない機能や使い方がばかりで、正直驚きました！

庄子 Voice Over(ボイスオーバー)という読み上げ機能ですね。音声で今何の画面を開いているかを教えてくれるので、視覚障がいのある方でも操作が可能になります。

佐々木 画面を指でなぞっている、読み上げられた音を聞きながら、使いたい機能を選択したり、文字を入力したり……という動作でしたが、耳の敏感さも重要なので、慣れるまではかなり難しそうですね。

庄子 私たちも、今回の講座のために勉強しましたが、1〜2時間でするようなものではないですね(笑)ただ、ユーチュー

ブなどを見ていると、視覚障がいをお持ちの方がアイフォンをかなり使いこなしている動画などもあるので、慣れれば大丈夫なんだと思います。なので私もさらに勉強中です。

佐々木 庄子さんたちはスマホ教室のインストラクターとして毎日中高年層などにスマホ教室をされていますが、視覚障がいをお持ちの方が来店することはありませんか？

庄子 聴覚障がいをお持ちの方が来ることはありますが、視覚障がいのある方は来たことがないです。なので私たちも何に困っているか分からなくて。実は前回の教室は障がいの種別に関係なく、障がいをお持ちの方向けのスマホ教室だったんです。そこにたまたま視覚障がいをお持ちの方が参加されていて、同じ内容でも教え方が全く違うことがわかったんです。それで今回は視覚障がいをお持ちの方に特化したという背景があります。

れるので、便利ですね。

佐々木 他にも視覚障がいのある方にお勧めの機能や使い方はありますか？

庄子 ラジオをスマホに入れておくとか災害時に安心できると思います。 구글マップなど、地図の機能も音声で道案内をしてくれるので便利です。シニア世代向けのスマホ教室でも災害時にスマホを活用する方法は取り扱っていますし、基本的な便利な機能は共通です。

佐々木 確かに便利さも不便さも、共通する部分は多いですね。

庄子 はい。手段や行きつく方法が違うだけで、不安や困っている内容は一緒なんです。

佐々木 スマホのSNSなどのコミュニケーション機能に目が行きがちですが、もっと生活に直結する不安や悩み、苦手を解消してくれる機能についても目を向けるべきかもしれません。スマホ教室の需要はますます増えそうですね。

佐々木 なるほど。聴覚障がいがある人にとっては、スマホは必需品とも聞きますが、視覚障がいのある人にとっては、教える側も教えられる側もハードルが高いんですね。

庄子 先日の参加者の方たちも「自分には絶対無理だ」って言ってたんです。でも、いわゆるガラケーは使ってたしやるので、操作に慣れさえすれば、スマホの方が便利に使える可能性がある気がします。

佐々木 先入観があるんですね。その要因はボタンの有無だと思うんですが、先日の教室ではホームボタンがあるアイフォンの機種を使っていましたね。

庄子 アイフォンのSEシリーズはホームボタンがあるので、ボタンがないことに不安がある人にはお勧めです。そもそも、スマホは大きく分けてアイフォンとAndroid(以下、アンドロイド)端末とに分けられますが、アンドロイド端末だと、様々なメーカーが製造しているため、端末による仕様の差が大きく、機種変更をするたびに使

い方を確認しなければいけません。アイフォンはApple社(アップル社)のスマホですので、機種が変わっても大きな仕様変更がなく、視覚障がいのある方には使いやすいと思います。

佐々木 ちなみに、今回参加されていた方の中には「ガラケーが使えなくなった時のために」という理由の方がいました。実際、ガラケーは完全に使えなくなってしまうんですか？

庄子 ガラケーと呼ばれる機種の多くが3Gという通信規格を使っていますが、この規格が間もなく終了します。3G対応の機種が使えなくなるIIガラケーが使えなくなると思っている方も多いですが、ガラケーの定義が難しい(笑)折り畳み式の機種を指すのであれば「ガラホ」と呼ばれる折り畳み式のスマホ(4G対応)がありますので、ボタンのある端末がすぐになくなることはありません。ただ、「スマホ教室」はあっても「ガラホ教室」はないので、どうせならスマホにすることを勧めますね。これは視覚障がいのある方に限らず、シニア世代の

佐々木 障がいの有無に関わらず、スマホに対する不安の根底はボタンの有無なのかもしれませんね。

庄子 実際、シニア向けのスマホ教室でも、需要があるのは文字の入力方法や電話のかけ方です。ボタンなしでどうやって文字を打てば良いのか、どうやって電話をかけたか出たりすれば良いのか分からないんです。そこで活躍するのがSiri(以下、シリ)という、声で操作するアイフォンのアシスタント機能です。

佐々木 教室でもシリで電話をかけたか、メッセージを送信してましたね！スケジュール入力やアラーム、タイマーまでシリで操作している様子を拝見して、目から鱗状態でした(笑)

庄子 そうなんです。視覚障がいのある方はスケジュール管理などが大変という話を聞いたので。シリで予定を入力しておくことで、先約とかぶっていないかまで自動で確認して教えてく

※3 本体下部前面についた凹型のボタン。このボタンを押すことでホーム画面を表示させることができる。
※4 スマホ用に開発されたGoogle製のOSの一種。正確には「Android OSを搭載したスマートフォン」であり、iPhone以外のスマホを指す。

※1 Apple社が提供する「iOS」を搭載したスマートフォンで、様々な通信事業者(キャリア)の元で利用可能。
※2 iPhoneに搭載された機能で、画面内容の説明を聴くことで、画面が見えなくても操作可能。Android端末にもVoiceOverという同様の機能がある。

団体紹介

おはなしグループ マザーリーフ

一関市立千厩図書館を拠点に活動。市内の幼稚園や子育て支援の場で、子どもや親子を対象にした人形劇や朗読劇などの公演を行っています。現在の会員数は7名。

※同会への連絡は一関市立千厩図書館へ
TEL:0191-51-1122

写真：公演後の集合写真(令和4年8月)



絵本の世界感を五感で楽しむために

一関市立千厩図書館内のミニシアターから聞こえてくる子どもたちの楽しそうな声。「夏のおはなし会」と題したイベントを開催していたのは、同館を中心に、市内の幼稚園・保育園、小学校などからの依頼に応じて子どもたちへの絵本の読み聞かせや人形劇等の公演を行っている「おはなしグループ マザーリーフ」です。

「本の楽しみかた」「読書の楽しさ」を伝えるべく活動している同会は、同じお話でも、スタイル（エプロンシアター／パネルシアター／紙コップ等の小道具を使用するなど、表現手法）を変えることで、様々な表現を楽しめるよう、日々工夫を重ねています。

その前身は「人形劇団たんぽぽぼ」(さらに前身は「人形劇団たんぽぽ」)。長い歴史がありますが、メンバーや活動の方向性を整理するべく、一度解散し、方向性を同じくする人たちでそれぞれ再結成

おはなしグループ マザーリーフ

しましようという運びになり、平成14年にマザーリーフが結成されます。千厩図書館が活動拠点ですが、会員は一関市内各地に点在しており、月4回の練習の度に千厩に集まってきます。

向上心を持ち続けて

人形劇団が前身ということもあり、今でも「劇」を主軸にしている同会。公演の依頼に応じ、メインの題材を決めると、小学生には朗読劇、未就学児には人形劇、というように、対象者に合わせて見せかたを変えています。

朗読劇にも様々な工夫が。劇の進行・場面に合わせ、打楽器を使った生音を入れるなど、臨場感を持たせ、来た人を楽しませます。人形劇で使用する人形はメンバーの手作り。練習を重ねる中で、一つの物語をいかに来場者に見せるか、すり合わせていきます。

また、自分たちの感性を豊かにし、劇のクオリティを高めていく

「生きがい」を与えてくれる居場所であり、メンバーにとっても、観客にとっても「日常から少し距離をおける場所」として、絵本を通じた「心の栄養」を届け続けます。

- Photo

gallery -

夏のおはなし会①

同会が主催し、20年続けている夏休み特別企画「夏のおはなし会」。1時間の中に4つメニューを組み込みました。



夏のおはなし会②

今回披露した人形劇は『ともだちくるかな』。手作りの愛嬌満点な人形たちが繰り出す一挙手一投足にみんな釘付け！



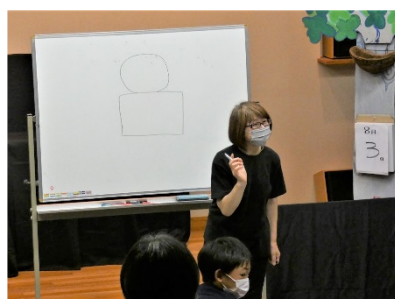
エプロンシアターも

エプロンを舞台に見立て、ポケットなどから人形を出したり付けたりしながら物語を展開する人形劇。もちろん手作りです。



描みは「絵かきうた」

ホワイトボードを使って観客と一緒に楽しむ「絵かきうた」。おはなし会のはじまりに持つことで場が和みます。



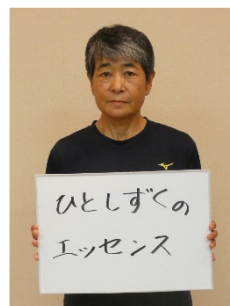
Q.同会の存在を一言で表すと？

代表



A. 居場所

会計



A. ひとしずくのエッセンス

千葉典子さん

同会結成時からの代表(前身団体から参加)。多くの人に劇を届けるため、メディア等を通じた活動の紹介に尽力中。

金子律子さん

前身団体から活動に参加。同会の参謀的存在。メンバーで話し合ったことを実現させるため、具体的なアクションを常に考えています。

日々の生活に「非日常」を取り込む大切さ

2つ目は「子どもが相手だからと言って手を抜かず、本気になってやる」こと。「本気度は観客に伝わる」ということをプロの公演から感じたことから、子どもたちにこそ本気を伝えるべく、常に全力で臨んでいます。

コロナ禍になってからは、公演依頼

日常から距離を置くための居場所として

地域紹介

藤沢第25区自治会(徳田)

旧藤沢町の中心地から400mほど東に位置(徳田地区内)する自治会で、35戸81人が暮らす。6班(隣組)体制で、「総務部」「産業部」「文教青年部」「女性部」「福祉部」の5部会で自治会運営を行っている。



左の写真：同自治会の花壇植栽作業の様子(写真は令和3年度)

隠語から見える地域の歴史と新たな地域資源

「名生城」の一部、「櫛」「萱刈場」「釜土」「袖の沢」「揚戸」と、難読地名とも言える小字で構成される藤沢第25区。「『萱刈場』という小字は、実はこの地で『金を採掘するところ』という隠語だったみたいです」と、自治会長の畠山憲さんは集落の歴史に思いを馳せます。

昭和49年に発足した同自治会の区域内には、平家とのつながりがあるとされる「大日如来堂」や「かしや猫」にまつわる伝説など様々な民話があり、平成23年には「二十五区地域お宝さがし」として冊子にまとめました。

また、徳田地区の多面的機能支払交付金の活動組織「農地・水・環境保全向上徳田地区活動組織」の事業である「ひまわり畑」が、同自治会エリア内にもあり、近年は写真撮影に訪れる人も増加。

民話として伝わる古くからの地域資源に、「ひまわり畑」のよう

「休会」を経て実感した自治会活動の意義

藤沢第25区自治会

藤沢

新たな地域資源も加わり、自治会への愛着を持ち始めた若い世代も少なくはありません。

小さな集落だからこそ役割が見える化して

5部会制で活動する同自治会。以前は6部会でしたが、自治会内の役を減らすことなどを目的に、平成29年に文教部と青年部を統合し「文教青年部」へ。同部会は町内のスポーツ事業や徳田地区の事業への協力等を担当するほか、自治会館周辺の草刈りや、その後のバーベキュー大会を企画しています。子どもも含め、老若男女が集うため、「幅広い世代で顔を合わせることは、信頼関係を深め、地域の防犯対策としても有意義です」と、畠山さんは労い以外の意味合いも実感しています。

また、総務部環境部門が担当する幹線道路沿いの草刈り作業(6月・9月)は、あえて花壇整備(草取り)と同日に行います。そうすることで高齢層の参加者にも、身体

的負担の少ない役割(草取り)を与えることができ、「地域活動に貢献できない」という引け目を感じさせにくくなります。

保健推進委員が担う福祉部は、実質的には保健推進委員の活動を女性部と調整しながら行っているような流れですが、部会という扱いにすることで、活動内容が自治会全体で共有され、自治会における保健福祉に関する動きを把握することができます。年に5回行われる「ふれあい一血運動(一関市食生活改善協議会藤沢支部主管)」への協力(同行)や、検診の啓発、敬老事業など、各種事業を支えています。

類を見ない「休会」という選択

そんな同自治会も一時は自治会存続の岐路に立ちました。少子高齢化・若者の人口流出に加え、住民の生活が多様化したことで、徐々に「自治会活動への参加が難しい」との声が増加。特に自治会長はじめ、役の担い手確保が難しくなり、平成26年度は自治会活動を「休会する」という選択をします。

同自治会の活動は、自治会独自の活動のほか、徳田地区としての活動もあります。休会に伴い、自治会独自の事

業は休止としたものの、徳田地区の活動(環境整備等)については、有志が参加することで、徳田地区住民としての役割はカバーしました。

しかし、そうした有志の動きだけでは、自治会外の動き(広域の地域活動)がカバーしきれず、女性部など、徳田地区や藤沢町全体の動きとの関わりが深い立場の役員から、自治会活動再開を望む声が。

「出来ることから工夫して、やれる人だけでやってみましょう」という機運となり、1年間の休止を経て、平成27年度より活動を一部再開させました。

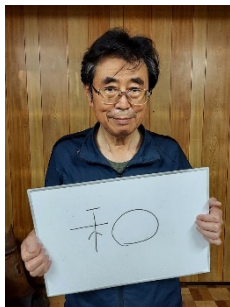
「みんながみんな自治会に関わることを嫌がっているわけではない。今まで関わりが少なかった人も、自治会行事に参加したことで『役を持つやりがい』を感じてくれた人もいます」と、休会後の手応えを感じている畠山さん。

一方で「人口減と担い手不足の課題は依然として残っています。だからこそ、お互いに支え合うために、自治会活動は不可欠であるとみんなが感じてくれることが一番の課題ですね」と、今後についても冷静に見つめます。

コロナ禍で毎年恒例の研修旅行等も実施できないなど、コミュニティの希薄化が進行しかねない状況ですが、住民が顔を合わせる貴重な機会として、

Q.集落の自慢は何ですか？

会長

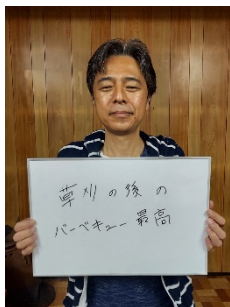


A. 和

はたけやま けん
畠山憲さん

就任当初は一度休会した自治会の再スタートに貢献。「自治会活動はみんなの協力があってこそ成り立つもの」とチームワークの大切さを語ります。

文教青年部長



A. 草刈り後のバーベキュー最高

さとう ゆういち
佐藤優一さん

4期8年目。「地域に何かの形で貢献したい」という想いから自治会役員を志願し、現職もあわせ、通算で20年近く各種役員を歴任しています。

定期総会だけは感染対策を講じた上で対面形式で行い続けた同自治会。「休会」も含め、今後も自治会活動の在り方を模索し続けていきます。

- Photo



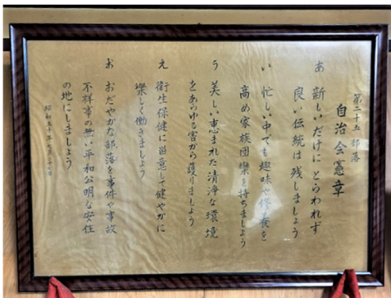
自治会館に掲げられている昭和61年度藤沢町農業祭仮装パレード参加時の集合写真。後方の山車は住民総出で作成しました。

思い出のひとつ



テーマは「縄文家族」平成25年の藤沢野焼祭りで同自治会が一関市長賞を受賞した時の作品。近年は自治会内有志での出品に切り替えました。

gallery -



自治会設立直後の昭和50年に制定。あいうえお順で、みんなが幸せに暮らしていく上で大事なことが記されています。

自治会憲章



令和3年の一斉清掃の様子。小さな子どもたちもゴミ拾いに参加し、コロナ禍における世代間交流の一つになっています。

クリーンアップ！

昭和59年創業。産業設備等の電子基板のはんだ付け(電子回路基板実装・リワーク)や各種電子機器装置の組立・検査を行う。高度なはんだ付け技能の習得を進め、「ものづくりのプロ集団」として、電子機器の「命」を繋ぐ同社では、約80人の社員の半数が女性。平成20年に「職場風土改革促進事業実施事業主(厚生労働省所管)」の指定を受け、同年に次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」を策定。子育てを行う男性・女性社員双方が、両立支援制度を気兼ねなく利用することができる仕組みをいち早く導入するなど、「子育て支援企業」として宣言を行い、雇用環境の整備を推進しています。

女性も活躍する 匠の技能を活かしたものづくり

電子機器の「命」を取り扱うからこそ「手作業」で

「コンセントや電池を入れて動くものには全て電子基板が入っているのですが、弊社ではその電子基板にはんだゴテを用いて部品を取り付け、製品の命を繋ぐ仕事をしています。仕上がった製品そのものは、大手企業等が販売元となるので、社名が表に出ることは少ないですが、実は皆さんが知っている・利用している製品のはんだ付けも多いんですよ」と語るのは、平成31年に興栄通信工業株式会社の代表取締役就任した村田幸さんです。

昭和59年、幸さんの父が一関市宮前町に「(有)興栄通信工業(平成5年に現社名に変更)」を設立。当初は「東北日本電気(のちのNECブラッドフォームズ株式会社)」の協力会社として電子交換機を中心に製品の製造を行っていました。

時代が変わるにつれ、徐々に量産製品は安価な中国生産などに切り替わっていきましたが、同社でははんだゴテを使う技能にこだわり、社員のはんだ付け技能資格取得を応援するなど、さらなる社員の技術向上を進めました。

機械化ではない「人の手の仕事」

にこだわったことにより、現在では、様々なお客様からの、数多くの製品製造を取り扱っています。

※「社内はんだ付け技能認定」という社内資格を設け、初級クラス・上級クラスの2クラスでその技能を認定している。

将来を担う子どもたちに夢と希望とものづくりと

JAXA(宇宙航空研究開発機構)が開発して打ち上げた小惑星探査機「はやぶさ」。平成26年に打ち上げられた「はやぶさ2」の電子基板にはんだ付けを施したのは興栄通信工業株式会社です。

「宇宙に行ってしまうえば、壊れたから直しましようとはできない、絶対にミスすることはできない製品です。そうした大事な製品は特に『人の手の仕事』で造り上げていきます。弊社では専門性の高いはんだ付け作業にも対応できるような教育を行い、技能の習得を進めてきました。そうしたことが評価され、日本

の大事な人工衛星の製造に声をかけていただいたことは、我々の誇りです」と幸さん。

また、同社では毎年、市内中学校へ出前授業の講師として赴き、自社で製作した教材(電子ホタル)を用いて、その技術の発信にも取り組んでいます。「座学ではなく、生徒と一緒に造り上げることで、ものづくりへの興味を持ってくれます。こういう機会を多くの子どもたちに提供したいですね」と笑顔を見せます。

さらに、多くの女性が社員として活躍していることから、幸さんの母である二代目が「子育て支援企業宣言」を取り入れ、子育て世代は9時から16時までの短時間勤務でも正社員として雇用し、子育てと仕事の両立が図れるようにしています。

時間にゆとりのある生活は「子どもたちに自分の仕事を伝える時間」を持つことにもつながり、さらにそれが次世代の興味関心へとつながっていきます。



- 代表取締役の村田幸さん。
- 一ノ関駅東口に展示してある同社の製品。
- 平成2年に現在地に工場を新設。

DATA

〒021-0821
一関市三関字仲田184-1
TEL 0191-21-5132
FAX 0191-21-5255
HP <https://www.koeit-kk.co.jp>

NPO = Non-Profit Organization = 非営利組織 ≡ 市民活動団体

「NPO法(特定非営利活動促進法)」が施行されたのが平成10年。一時は、ブームのようにNPO(NPO法人)が注目を集める時代がありました。それから20年が経過し、いまは「地方創生」が主軸の時代に。そんな状況で、「もうNPOの時代は終わった」と囁く人もチラホラ。NPOの時代が終わったのではなく、**NPOという存在が社会の一員として定着した**だけではないかと思っています。

しかし、「NPO」という言葉に聞き馴染みがあっても、詳しくは知らないという方が多いのも事実。最近NPOについて解説する講座などが少なくなったことも原因の一つでしょうか。

NPOは「**市民活動団体**」とも言われ、自治会活動等とは異なり、その多くは居住地域に紐づかず活動する「**テーマ型**」の団体です。テーマ型なので、**課題に対して明確なビジョン**があり、その団体を立ち上げる強いリーダーシップをもった人が進めていきます。テーマが明確な分、**興味関心がある市民が集まるため、行動も具体的にスピーディー**です。経験と共に**専門性**も高まり、まちづくりや地域づくり分野の「パートナー」としても目立ちます。前号で触れた、地域における「各種団体」も、「市民活動団体」ではあるのですが、今回取り上げる「市民活動団体」が「**‘テーマに興味がある人’で構成された(居住地に関係なく集まった)団体**」なのに対し、地域内の「各種団体」は「**地縁型**」であり、「そこに居住する人々」で構成されます(居住地域に紐づく)。

「NPO＝ボランティア」とされることもありますが、「ボランティア」は、もともと「**個人の自発的な行動**」を指します。NPOが組織活動であるのに対し、ボランティアは個人の動きです。しかし、時代とともに考え方が変わってきており、その代表的なものが「**有償ボランティア**」。ボランティア活動をするにも旅費交通費や材料費等経費がかかるため、それに対して有償とするなど、ボランティアが「個人の自発的な行動」ではなくなってきています(それが悪いという意味ではありませんので、悪しからず……)。

数年前、一関市内の病院に勤務する医師の方から「**市内在住の外国人に対して医療相談や健康診断を行うNPOを設立したい**」という相談がありました。すでに団体の規約や事業計画が出来上がっており、市内では今までにない活動だったので、我々も応援することに。そして実際に**医療関係者や在住外国人に関係する人たちの協力を得て、医療相談会(健康診断・食事提供含む)を実施**し、話題になりました。その後、発起人が盛岡市内の病院に勤務することになり、盛岡市内でこの活動は継続されています。

在住外国人に健康診断を受けてもらいたいという趣旨に賛同した人たちが無償で集まったのですが、このような「**ココロで動く**」コテコテのNPO活動が個人的に大好きです。

NPOにおける「持続性」とは？

前述したような「ココロで動く」有志の活動がある一方、NPOに対しては「**助成金**」も様々あるため、助成金獲得のために活動しているように見えるNPOも少なくありません。もちろん活動するために資金は必要になるので、大事なことですが、時々、組織を継続するために活用している例も見受けられます。**助成金は、「社会的な課題を解決するため」に用意されているものであり、「カネありき」の発想は本末転倒**です。課題解決には「市民からの信頼」が不可欠ですが、そうした「カネありき」の発想で活動しては、市民からの信頼は得られません。「**団体の存在意義**」と助成金などに頼らずとも活動を継続していくための「**持続性**」を常に考え、行動することが大事です。

……と、ここで新たな課題が。会員が高齢化し、今後の活動や団体の維持が困難になってきているという団体が……。会員獲得の悩みもNPOあるあるの一つではありますが、NPO(市民活動団体)は、**わざわざ会員を増やして未来永劫続けていく必要があるのでしょうか？**当センターとしては、**目的達成で解散するなど、無理をしてまでも継続する必要はない**と考えています。「持続性」や「多様性」が重要キーワードとされる現在、**カネを頼るのではなく、「ココロ」を拠り所として活動すること**に、今一度、目を向けてみませんか？

「たばこどき」の今昔を 探ってみた

現在でも農作業時(特に田植え)には「たばこどき」という言葉を使うという人は少なくなく、「たばこどき」という習慣そのものは現代にも残っているものの、そこで提供される食べ物には大きな変化が！

右の表は当地域の中高年層にヒアリングした結果と、各種文献資料に記載されていた「たばこどき」で提供されていた主なメニューです。

握り飯は現代まで一貫してスタンダードメニューですが、当時は「**がんづき**」「**げんべた**」や、冬に仕込んでおいた「**凍み餅**」などが「たばこどき」の主要メニューでした。

米(もち含む)	小麦	その他
・小豆飯(おふかし／赤飯) →豊作祈願で初日のみ ・握り飯(塩／塩と豆／味噌) ・ぼた餅／おはぎ ・ごんぼっ葉もち(≒草餅) →ヤマボクチなどの葉を使用 ・凍み餅(≒干し餅) →じゅうね油で焼くことも ・団子 ・油焼き →冷や飯に小麦粉を入れてかましし、調味後にじゅうね油で焼く	・がんづき(塩／味噌／黒砂糖) →重曹を使わないものもあり ・げんべた(≒なべやき) →材料や調理方法は家庭による差が大きい ・葉焼き →みょうがの葉を使用 ・麦まんじゅう ・ぎんづば	・ふかし芋 ・干し柿 ・お煮しめ ・甘酒 ・どぶろく →特に結いで手伝ってくれている人へ ・そばねり



① 現在は道の駅やスーパーなどに様々な「**がんづき**」が売られています。①、当時はもちろん家庭での手作り。一般的にがんづきは重曹などを使用して膨らませますが、**甘酒や味噌などを発酵させることで膨らませていた**家庭もあるようです。



② また、黒砂糖を使用するイメージも大きいですが、当時は**塩や味噌で味付けした「しょっぱいがんづき」**も多かったことが判明。②は実際に当センタースタッフが再現してみた「甘酒と味噌で発酵&調味したがんづき」。



昭和50年以前の「たばこどき」 スタンダードメニュー

③ 現代で言う「ホットケーキ」に近いのが「**げんべた**」③。地域によっては「なべやき」や「べったらやき」などとも呼ばれます。要は小麦粉を水で溶き、油で焼いたものですが、家庭によっては「流し焼き」ではなく、耳たぶ状の硬さにした生地に、味噌(砂糖があれば混ぜる)などを挟んで焼く(ゆでる家も)ことも。同様のものをみょうがの葉にくるんで焼く(いろりに挿す)と「**葉焼き**」になり、初夏の楽しみだったそうです。



ちなみに当時使用した油は「**じゅうね油**」であり、昭和40年頃までは多くの家庭がじゅうねを栽培し、じゅうね油を使用していたのだとか(油絞め工場がなくなったことで衰退)。

じゅうね油で焼くものとしては他にも「**凍み餅**」や「**油焼き**」(詳細は上記表参照)などがあり、農作業時のエネルギー源として人気があったようです。

< 現代の「たばこどき」 >

当センタースタッフが今年の田植え時に撮影した「たばこどき」の風景です。左の写真は豊作祈願でお供えするお煮しめと赤飯(おにぎり)で、「たばこどき」にはお供えしたものと同様のメニューをいただきました。そのほか、市販の食料も調達。全国的にも「田植え休憩」のメニューは、兼業化や農作業の機械化に伴い、田植えが少人数かつ短期集中型で行われるようになった1980年代以降はスーパー等で購入した食品が主流のようです。

<参考文献> 誌面の都合上、ここでは割愛させていただき、当センターホームページにて掲載しております。ご了承ください。
なお、ホームページには当センタースタッフ作の「がんづき」「げんべた」のレシピも掲載しています！

「おやつ」に関するミニ知識②

「お菓子などを食べる『おやつ』」という概念が普及していった背景には「**駄菓子**」の存在も考えられます。当地域においても旧村(≒現在の大字エリア)毎に少なからず「駄菓子」を扱う店はある(昭和30年頃)、町場エリアにはいわゆる「駄菓子屋」もあったようです。

ちなみに「駄菓子」という言葉が生まれたのも江戸時代。当時食べられていた「お菓子」には「上白糖」が使われており、高級品(当時は)でした。そのため、食べられるのは大名や武士などの身分の者だけ。この上白糖を使った高級な菓子を「上菓子」と呼んでおり、**上白糖の代わりに安価な黒糖を使った菓子を「上菓子」に対して「駄菓子」と呼びました。**

「駄菓子」とされるお菓子は、麦、豆、稗(ひえ)、粟(あわ)などの雑穀、屑(くず)米でつくった粉、これに水飴や黒糖などを加え、種々の形にこしらえて彩色を施したものであり、現代の「駄菓子」とはまた異なるものでした(通じるものもあります)。

全国的に見ると、「駄菓子」は、江戸期には屋台売りでしたが、明治以降は露地裏の小店で売られるようになり、これらの店ではお好み焼きやアイスキャンデーなども取り扱うなど、いわゆる「駄菓子屋」に発展していきました。大東町大原の駄菓子屋では「きなこ飴」や「きんたろう飴」のほか、美空ひばりのプロマイド写真なども売られていたとか(ヒアリング結果より)！

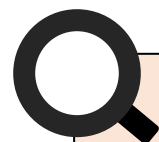
とは言え、やはり農村エリアでは「あけび、柿、ちゃごみ」など、「自然の恵み」が「おやつ」の主流だったようです。

地域の「気になること」をセンタースタッフが独自に調査！

センターの 自由研究

ミッション
71

くらし調査 ファイルNo.18 「たばこどき」



田植えの時期になると、田んぼのあぜ道などで和気あいあいと休憩をとる光景を目にします。この「農作業の合間の休憩」を当地域では「たばこどき」と称し、煙草を吸う・吸わないに関係なく、大人も子どもも「たばこどきにすっぺ」の合図で休憩をとっていたようです。そして当地域に伝わる「郷土菓子」の多くは、この「たばこどき」の定番メニューとして伝承されてきた可能性が……。 「たばこどき」と、当地域における「おやつ」事情を整理しました！ ※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

「たばこにする」とは？

当地域の農家や年配者が当たり前のように使ってきた「たばこどき」や「たばこにする」という表現。標準語で表すと「**一休み**」や「**休憩**」です。決して「喫煙する」という意味ではありません。

「休憩」を「たばこ」と称するのは、当地域含む**岩手県(概ね花巻以南)と宮城県、秋田県の一部**。当地域では「たばこどき」「たばこにする」という使い方が多いですが、宮城県では「たばこ休み」「たばこ休憩」という用例になるようです。

興味深いのが遠く離れた**山陰地方**でも使われているという事実！ **出雲弁・鳥取弁・但馬弁・丹後弁**(いずれも山陰地方)では、「**たばこする**」という表現が同じ意味で使われているようです。

また、**鹿児島弁**には「**こたばこ**」小煙草「**小休止**」として「こたばこいすい」が(小休止しよう)という方言があると。

いずれの表現も「**たばこ**」休憩・休止」という意味合いで使われていますが、特筆すべきは「**作業の合間に少し手を休める**」というニュアンスであり、「**作業**」と**紐づくもの**ということ。そしてあくまでも「**小休止**」であり、「まだしばらく続きそうな作業なので、一度休憩しましょう」という場面で使われる表現です。

また、「三遍回って煙草にしょ」ということわざがあり、「休憩は後回しにして、手落ちがないか、念には念を入れて確かめよ」という意味です。夜回りの人が三回見回って安全を確かめてから一服(煙草休憩)をしたことからきた表現のようですが、「煙草」休憩」という意味合いになっています。

江戸時代以降に庶民の嗜好品として流行した煙草は、休憩時の最上位の楽しみであった可能性もあり、「休憩」煙草」だったのかもしれない。嗜好品の幅が広がるとともに、喫煙以外にも含めた休憩が「たばこ」になっていったのか……と推測するも、その背景や時期は分かりませんでした。

「小屋(こびる)」との違い

同様の表現に「**小屋(こびる)**」があります。当地域でも使われることはありますが、「たばこどき」の方が圧倒的にメジャーです。

逆に**岩手県北**では「**小屋**」の方がメジャーであり、「**こびり**」「**こんびり**」という表現になることも。全国各地で「方言」として紹介されていますが、国語辞典にも掲載されていることから、**標準語に近い**ようです。

なお、当地域では「農作業などの休憩時間や家庭のおやつとして食べる郷土菓子」を総称する「**名詞**」として使われることもあります。

「おやつ」に関するミニ知識①

ヒアリングする中で現在の60代以上から聞かれた「昔は『おやつ』なんてなかった」「しいて言えば**野山で自力で調達する木の实などが『おやつ』だった**」などの回想。現代のような「おやつ」という概念はなく、食事以外の食べ物(特に甘い物)を口にすることができたのは「たばこどき」のような「**作業の対価**」としてだったとか。働かざる者食うべからず……ということ、子どもたちも「たばこどき」を楽しみに農作業を手伝ったそうです。

ちなみに、「おやつ」という言葉自体は元禄期(江戸時代)にはあったようで、その語源は「**八つ時(やつどき)**」。昔の時刻の呼び方で、現代の午後2時～4時にあたります。古くは**1日2食**でしたが、流通が盛んになったり、夜間に灯りを灯せるようになると、1日の活動時間が延び、1日3食が普及したのだとか。農家の場合、日の出とともに起床し、農作業をしてから1食目を食べ、再び作業を行い、日没後の3食目までの間食として2食目を食べているので、その2食目が「おやつ」の時間帯だったようです(身分や職業、地域によって異なる)。

なお、現代における「**お菓子などを食べる『おやつ』**」は、昭和30年代後半から放送が始まったテレビCM(「文明堂のカステラ」)がきっかけとされますが、当地域で一般家庭のテレビ普及率が70%を超えるのが昭和40年以降なので、当地域で「おやつ」という概念が一般的になるのも、その頃からなのではないかと想像します。